

# 浜田沿岸漁場における“シロイカ”漁況と流況の 日々変化との関係を示す観測例<sup>\*1</sup>（抄録）

小川嘉彦<sup>\*2</sup>・森脇晋平

この報告では、漁場の流れの日々変動と“シロイカ”漁況変動の関係を検討した。資料は 1983 年 6 月と 10 月に日本海南西部の島根県浜田沿岸水域で行った 24 時間おきの海洋観測結果である。測流方法としては調査船で海流板を追跡するラグランジュ法を用い、調査期間中、山口県外海水産試験場の調査船黒潮丸（149.28 総トン）によって追跡することによって流況を調べた。“シロイカ”漁況の日々変動に関する情報としては浜田市漁業協同組合国府支所のイカー本釣漁船団について、日別出漁隻数、日別漁獲量を調査し、解析に用いた。風については、黒潮丸での海上風の観測結果とともに、浜田測候所における風の観測データも併わせて検討した。浜田沿岸海域では陸岸に平行な流れの変化は陸に平行な風の応力にともなっておこる。すなわち、陸岸に平行な流れは、陸岸に平行な風の応力が増大するとき強くなり、逆に陸岸に平行な風の応力が減少すると陸岸に平行な流れは弱くなる。6 月～7 月にかけて、北東流が発達した 2 日後に“シロイカ”の漁況が良くなる傾向が存在することが示された。こうしたことから、初夏の浜田沖の海域での“シロイカ”は北東流が発達したときに沖寄りに補給され、次に北東流が弱まったときに沿岸漁場に参加すると考えることができる。

---

\*1 水産海洋研究会報 第 49 号（1985）に発表した。

\*2 山口県外海水産試験場